

平成30年度総合研究所 中間報告会

今年度、設立2年を迎える研究センターが、現在の進捗状況や最終年度に向けた展望を報告します。是非ともご参加ください。

日時：平成30年11月14日(水) 15:30～17:40

場所：タワー75 15階 レセプションホール

講演内容：

申込不要
聴講無料

15:40～16:10

『愛知の産業分水嶺— 愛知のものづくりの課題と展望—』

自動車をはじめ、長年、日本の製造業を支えてきた愛知のものづくりですが、電動化・知能化・情報化やシェアリングエコノミーなど「100年に一度」と言われる自動車産業のパラダイムシフトが進む現在、企業にはさらなるものづくり経営の深化と革新が求められています。本報告では、現在の愛知のものづくり企業が直面する経営課題を明らかにし、その解決策や将来展望の一端をお示しします。

ものづくりマネジメントシステム研究センター

代表 経営学部 田中 武憲 教授

16:20～16:50

『塩耐性植物の物質生産の制御機構および海藻養殖に影響を与える環境要因の解明』

植物の耐塩性のしくみを明らかにするため、塩耐性植物であるシュガービート(Beta vulgaris)を材料にして、浸透圧適合溶質であるグリシンベタインの合成経路の複数の酵素について、酵素活性および遺伝子発現について調べました。また、内湾における海藻養殖に対して悪影響を与える海水の濁りについて観測を行い、濁り発生のメカニズムを明らかにし、内湾の海水の濁りをシミュレートできるモデルの構築を試みしました。これらの研究で得られた結果について報告します。

資源循環システム構築国際研究センター

代表 理工学部 田中 義人 教授

17:00～17:30

『省エネ時代における健康・快適を生む住環境の実現を目指して』

温暖化が深刻化する中、建物の省エネルギー化はますます加速しています。一方、誤った節約志向の住環境設計は、居住者のストレスを増し、場合によっては健康被害をもたらすことが知られています。従って、将来の住環境は、エネルギー消費を削減すると共に快適かつ健康を保証する技術開発が重要です。以上のことに注目して進めてきた研究の進捗状況を報告します。

未来型住環境を創造する研究センター

代表 理工学部 垣鏑 直 教授